

製品名: LIMK-2 (リン酸化 Ser283) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04955**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	72kDa

抗原情報

遺伝子名	LIMK2
別名	LIMK2; LIM domain kinase 2; LIMK-2
遺伝子 ID	3985.0
SwissProt ID	P53671
免疫原	抗血清は、Ser283 のリン酸化部位周辺のヒト LIMK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 249-298

背景

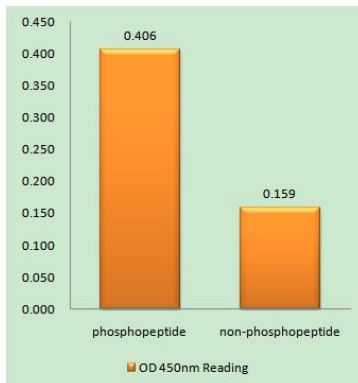
真核生物の LIM タンパク質は約 40 種類知られており、含まれる LIM ドメインにちなんで名付けられています。LIM ドメインは、2つ

のジンクフィンガーを含む高度に保存されたシステインリッチ構造です。ジンクフィンガーは通常、DNAまたはRNAに結合して機能しますが、LIMモチーフはタンパク質間相互作用を媒介すると考えられます。LIMキナーゼ1とLIMキナーゼ2は、2つのN末端LIMモチーフとC末端タンパク質キナーゼドメインのユニークな組み合わせを持つ小さなサブファミリーに属しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Rhoの下流エフェクターであるROCKによってリン酸化されて活性化され、次にコードされているタンパク質はコフィリンをリン酸化して、アクチン脱重合活性を阻害します。この経路は、Rho誘導性のアクチン細胞骨格再構成に寄与すると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする少なくとも3つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2008年7月],触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能:in vitro でミエリン塩基性タンパク質およびヒストン(MBP)のセリン/スレオニン特異的リン酸化を表示します。PTM:ROCK1によってセリンおよび/またはスレオニン残基がリン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性:PDZ (DHR) ドメインを1つ含みます。類似性:タンパク質キナーゼドメインを1つ含みます。類似性:LIM亜鉛結合ドメインを2つ含みます。細胞内局在:アイソフォーム LIMK2aは細胞質と核に分布します。細胞内局在:アイソフォーム LIMK2bは主に細胞質に存在し、核にはほとんど移行しません。サブユニット:ROCK1およびLKAPに結合します。PARD3と相互作用します。NISCHと相互作用します。組織特異性:胎盤で最も高く発現し、肝臓、肺、腎臓、膵臓では中程度です。肝臓、結腸、胃、脾臓ではLIMK2aがLIMK2bより多く存在しますが、脳、腎臓、胎盤ではLIMK2bが優勢です。成人の肺では、LIMK2aとLIMK2bの両方がほぼ同数観察されます。

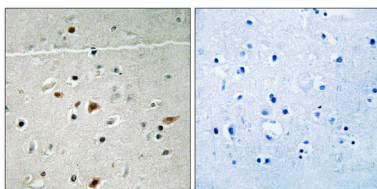
研究分野

軸索ガイダンス、FcガンマRを介した貪食、アクチンと細胞骨格の調節。

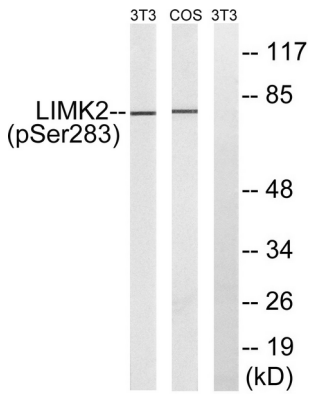
画像データ



LIMK2 (リン酸化 Ser283) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



LIMK2 (リン酸化 Ser283) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



LIMK2 (リン酸化Ser283) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが LIMK2 (リン酸化Ser283) ペプチドでブロッキングされている。